

マドックス小杆正切尺法でのシュミレーション

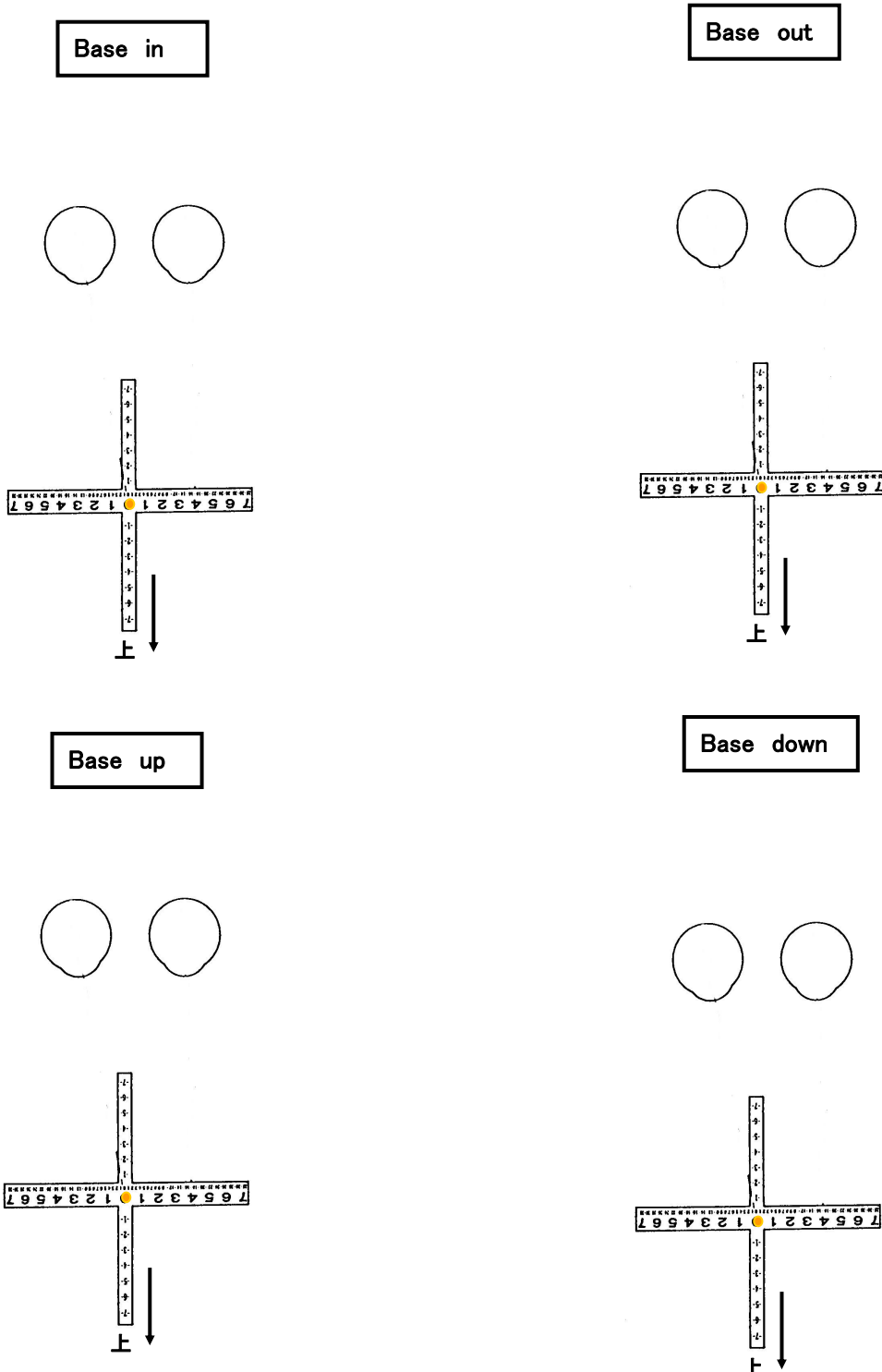
①光源の前に位置させ、検査法の通り reading-off 法、recentration 法を行う。

正位であった場合は片眼にプリズムを 6△Base in に装着させ(この眼を未装用と考える) 偏位を作り他眼に小杆を装用し、同様にいき、recentration 法の際は小杆装用眼にプリズムを装用して中和する。

検査結果を理由とともに提出する。

課題

②1m にて Base in、out、up、down にそれぞれフレネル膜 10△を小杆側に装用させ、reading-off 法にて検査し、見え方を記載し、なぜそう見たかの理由を図とともに記載する。(recentration 法は省略で良い)



マドックス小杆を使用する方法でのシュミレーション

①光源の前に位置させ、検査法の通り reading-off 法、recentration 法を行う。

正位であった場合は片眼にプリズムを 6△Base in に装用させ(この眼を未装用と考える)偏位を作り他眼に小杆を装用し、同様にいき、recentration 法の際は小杆装用眼にプリズムを装用して中和する。

検査結果を理由とともに提出する。

課題 1

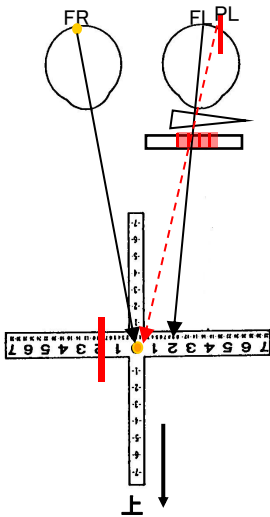
解答例

②1mにて Base in、out、up、down にそれぞれフレネル膜 10△を小杆側に装用させ、reading-off 法にて検査し、見え方を記載し、なぜそう見たかの理由を図とともに記載する。(recentration 法は省略で良い)

例)被検者に reading-off 法にて 18° の外斜偏位があった場合

Base in

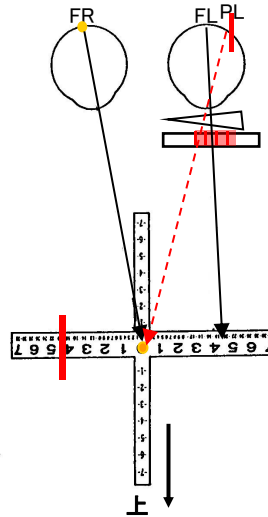
結果)交差性10°



10△Base in にプリズムを装用したことにより 5° 中和されることとなるので、 $18 - 5 = \text{約 } 13^\circ$ の外斜偏位となるが、プリズム装用位置の誤差と近接性輻射他などで 10° になったと考えられる。

Base out

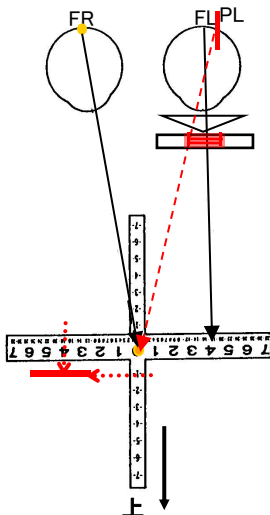
結果)交差性20°



10△Base out にプリズムを装用したことにより 5° 外斜方向に増加することとなるので、 $18 + 5 = \text{約 } 23^\circ$ の外斜偏位となるが、プリズム装用位置の誤差と近接性輻射他などで 20° になったと考えられる。

Base up

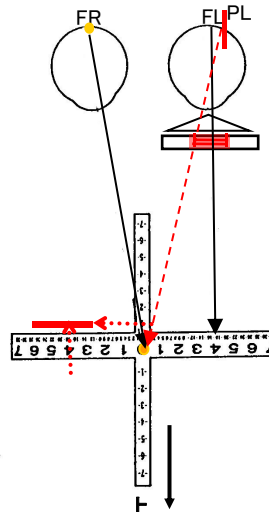
結果)交差性16° 下方4°



10△Base up にプリズムを装用したことにより網膜上では 5° 中心窩より上方に偏位することとなり、視空間では水平方向の偏位はそのまま(誤差含む)、下方に偏位したと考えられる。

Base down

結果)交差性16° 上方4°



10△Base up にプリズムを装用したことにより網膜上では 5° 中心窩より下方に偏位することとなり、視空間では水平方向の偏位はそのまま(誤差含む)、上方に偏位したと考えられる。